

北陽同窓

会報 第33号

2011年2月28日

発行 関大北陽高校同窓会
 編集 同窓会広報委員会
 題字 関東支部 内海 昭

創立85周年記念号

校舎の変遷



大正15年3月～昭和32年6月



昭和32年6月～昭和54年4月



昭和54年4月～



関西大学北陽中学校 新校舎

「母校北陽」の期待に応えられる連合組織を目指したい

関西大学北陽高等学校同窓会 会長 足立 宗央（昭和42年度卒業）

創立85周年おめでとうございます。

同窓会会員の皆様におかれましては、ますます健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃は同窓会運営に対して、ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私は平成22年度代議員会において、神山興三氏の後任として就任しました昭和42年度卒の足立でございます。

神山前会長が平成17年に会長に就任されるにあたり、その人柄に魅かれて副会長をお引き受けした出会いがあり、母校の創立85周年記念の節目に引継ぎさせていただくことになりました。

同窓会の方針は、元会長の三木憲三氏が目指された「同窓会活動は卒業生全員を対象として、推進めるという大原則」を踏襲しながら、神山前会長が提唱されている三位一体（学校・恩師・同窓生）の実現である「再会に繋がる活動」を継続していくたいと考えています。

と同時に、同窓会単体としての活動から、PTA・クラブ・OB会との連合体へと拡大を図り、「母校北陽」の期待に応えられる活動を目指していきたいと考えております。

人生において、高校生活は「人間性を形成する」大事な3年間

と言っても過言ではないと私は考えています。私自身を顧みても、「母校北陽」での三年間、影響を与えてくださった多くの先生方、色々と語りあった先輩・後輩そして同級生に恵まれたからこそ、今があると感謝しています。

「母校北陽」の85年間も、【目で見る北陽80年の年史】に記載された文字を引用すると、創（大正14年～昭和16年）、乱（昭和17年～昭和27年）、激（昭和28年～昭和53年）、翔（昭和54年～平成19年）に表現されていますが、それぞれの時代に恩師と同窓生との出会いのがあったと思っています。

そして、冠名が「関西大学北陽高等学校」になって、再（平成20年～現在）の文字で表しても、大正14年、初代校長糸島實太郎先生が「知・徳・体の調和した円満な人間性の形成」を建学の精神とした教えは、在校生によって永遠に引き継がれると確信します。

最後になりましたが、ホームページについては、同窓の皆様にとって「交流のツール」になればと作業中でございます。もう少しご猶予を戴きたくお願い申し上げます。

そのためにも、私たち執行部は一丸となって活動してまいりますので、よろしくご支援ご協力そしてご参加くださるようお願いいたします。



（贈）成瀬國晴画伯

福武家との出会い

関西大学北陽高等学校同窓会 顧問

母校創立85周年おめでとうございます。

私は平成17年5月に会長に就任し平成22年4月に退任するまでの間は、正に母校にとって激動の5年間を務めてまいりました。

平成20年4月に関西大学と合併により、校名が関西大学北陽高等学校に変わり、新生北陽高等学校として新しい第一歩をあゆみ出し、北陽の歴史と伝統は継承され、ますます進化発展していくものと思います。

私は昭和33年に北陽商業高等学校を卒業し、同年3月2日に同校のオーナー会社である、関西スピンドル株式会社に入社し、経理に配属されて以来今日まで、50年余年に亘り、勤務できたことは幸運であったと思います。

福武学園北陽高等学校の歴代の理事長先生方は、関西スピンドルの経営者でもあり、私の上司でもあります。直接指導薰陶を受け、経理、総務を担当し、その間に培ったことが大きな財産となり、私が平成8年に妻の家業を引き継ぎ経営者として、今までやってこられたのは、その時の経験が基盤になっており、大変感謝を致しております。

とくに第3代目の理事長の福武道裕氏とは、北陽高校在学中に解析の教師として、教壇に立っておられ1年間教えて頂いた恩師の関係もあり、

神山 興三（昭和33年度卒業）

今日までの私の上司として指導を受けております。

まさか恩師の方が上司になると予想も出来ず、この奇遇の出会いに驚いております。

福武家の歴代の理事長の中で、2代目の福武幸吉氏が北陽高校の中興の祖の人であり、今日の北陽高校の基盤を築き、淡路校舎の移転と新校舎の建設と、摂津にある第2グランドの購入等で手腕を發揮され、施設拡張に努められ、激しい組合交渉も、持前の信念と毅然とした姿勢は私学経営者から、称賛され、その存在を認められました。

しかし乍ら、少子化の波とともに生徒数が激減し、私学の経営に大きなインパクトを与え、この状況を踏まえ、将来に繋がることを考え、合併することを決意され平成20年4月に関西大学と合併する運びとなりました。この合併は福武理事長の将来を見据えた長期的展望に立ち、苦渋の大判断であった思い、この熱い思いに敬意を表するとともに我々北陽OBは忘れることなく、次世代に伝えて行かなければならないと思います。

縁があつて福武家とは親しい間柄になりこの出会いを大切にし、明日に繋げていきたいと思います。



体育館建替えが決定しましたらご協力をお願いします

関西大学北陽高等学校 学校長 鈴木 清士

平成22年は、単に10年ごとのキリのいい年であるということだけでなく、北陽にとっては3つの大きな意味のある記念の年になりました。

一つ目は、関大と合併して3年目を迎え、初めて3年生が関大の内部進学に挑戦をする年であります。二つ目は、北陽中学校が開設し、中高一貫教育がいよいよスタートした年であります。

そして三つ目は、現在の関大北陽高校の母体である北陽商業学校が大正14年(1925年)に設立され今年で85年目という、これも節目といえる年を迎えることになったということです。

還暦同期同窓会開催の意味

去る11月13日に、「還暦同期同窓会(ホームカミングデー)」が開かれました。今回の同窓会は、「85周年に当たる記念の年だから、多くの会員に参加の呼びかけをさせていただこう。そして、新旧がうまくつながっていけるような同窓会にしよう」と、神山前会長からバトンタッチを受けた足立会長の熱い願いが込められていました。

ぜひ、母校に帰ってきていただき、新生北陽を見守って応援してください。
北陽同窓会を支える3つの世代

北陽の同窓生は、昭和20年前後を境にして、糸島校長時代の同窓生

と福武学園時代の同窓生の2つの世代のグループで成立っています。

さて、今年の3年生が卒業すれば、新生北陽の3つ目の新世代が登場します。

これらの北陽同窓会は、3つの世代の人たちがそれぞれの時代を乗り越えて、仲良く融和して活動していくほしいと願います。

体育館建替へのご協力のお願い

昭和39年に建てられた体育館は、今年で46年を経過し、これまで何度も応急的な補強措置で済ませてきましたが、それも限界に近付いてまいりました。本校の悲願ともいべき「体育館の建替え」を法人へ要望し、現在検討をしていただいている。

しかしながら、何よりも莫大な事業費が見込まれるわけで、実行可能にするためには何よりも多額な資金が必要であることは言うまでもありません。

募金活動開始の際は、どうか皆様方のご支援を頂きたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



関西大学北陽高校創立85周年に寄せて

関西大学第一高等学校同窓会 会長 小坂 圭一

北陽高校創立85周年おめでとうございます。

御校と我校とは創立の頃よりその関係が深かったと聞き及んでおります。学校法人関西大学の併設校、兄弟校としての現在が有る事は、慶ばしい事と心より感じています。

北陽高校は、1922年関西大学が大学令による「関西大学」に昇格の際に多大なご尽力をされた総理事・学長の山岡順太郎先生のご子息の山岡俊先生により創立され、その教育理念は「知育・德育・体育」の調和のとれた人間形成を行う事とし、その本質は父順太郎氏の文武両道を継承され、まさしくその始祖の理念と同じくするものを感じております。関大一高においてもその教育の目指すところに、「知育・德育・体育の高度に調和した人格の育成を目指して」とあり、まさに今現在に同じ学校法人関西大学を冠し、兄弟校であることの自然を感じております。

私にとって、個人的には元同窓会長の三木憲三様は私の父親の関

西大学ボクシング部の同級であり大親友であります。私にとっては敬愛する前社長であります。また元同窓会副会長の栗田文吉様は、当時私がヤンマーディーゼルのサラリーマン時代に於ける上司であります。そのような関係も、私にとり御校を近く感じるゆえんかと感じております。

冠される学校法人が変わり、旧来とは何かと戸惑われる事が多いとお聞きしておりますが、共に関西大学の併設校の同士として手をたずさえ、さらなる発展を目指して参りたいと思います。

私ども関大一高も平成25年に新制高校設立より65年を数え、前身の関西甲種商業学校の設立より100周年を迎えます、共に歴史ある高校として、またその卒業生として誇りをもって互いの母校の発展を心より願いつつ、北陽高校の85周年のお祝いのご挨拶とさせて頂きます。

ここより、おめでとうございます。



各界で活躍されている母校出身者から

強かった時代の

野球部・サッカー部をもう一度取り戻してもらいたい

オリックス・バファローズ 監督

岡田 彰布

創立85周年、おめでとうございます。

思い返せば卒業してからもう35年が過ぎました。私は明星中学校でしたので、普通はそのまま高校に進学する予定でしたが、同級生の梶浦君の兄さんが硬式野球部の出身と言う事で母校を選ばせて頂きました。「野球がしたい」、「甲子園に行きたい」その強い気持ちが当時私学7強のライバル校でもある、母校への進学につながったと思います。

入学時の監督は高橋先生で、2年時から松岡先生が監督になられて、早稲田大学進学まで非常にお世話になりました。私は運良く、1年夏からレギュラーとなり、すぐ甲子園まで連れて行ってもらいました。ベスト8で負けた時、3年生は甲子園の土を持って帰りましたが、私にはあと4回も甲子園に行くチャンスがあり、この甲子園に絶対に戻ってくるという気持ちで、持つて帰りませんでした。しかし、それ以降チャンスをものに出来ず、この1回だけの出場となりましたが、すばらしい体験をさせてもらったと思っています。

校名が、関西大学北陽高等学校と変わりましたが、「名門北陽」と言う伝統は今も続いています。強かった時代の野球部・サッカー部をもう一度取り戻してもらいたいと思います。

現在、私はオリックス・バファローズの監督をしていますが、阪神タイガースの監督時代から、北陽の先輩にも後輩にもたいへんお世話になっています。2005年の阪神タイガースでの優勝の時には、新幹線から見えるように「優勝おめでとう。岡田監督」の横断幕を作ってもらいました。

北陽高校出身で、初のプロ野球監督として、今年はオリックス・バファローズで優勝をめざして、母校の名に恥じないよう精一杯頑張りたいと思っています。

オリックス・バファローズのご声援もよろしくお願ひいたします。

関西大学北陽高等学校同窓会 顧問(昭和51年度卒業)



お互いに切磋琢磨することこそが、 関大北陽高校の発展に寄与することになる

上智大学 法科大学院 教授

原 強

昭和51(1976)年3月に北陽高校を卒業してから、35年もの月日が経とうとしています。現在、上智大学法科大学院教授として、わが国の法曹養成のために教壇に立つとともに、弁護士として、主に、実際の社会において生起しているさまざまな民事紛争案件を扱っております。

現在、充実した素晴らしい日々を送ることができますのも、多感な時期に北陽高校でかけがえのない3年間を送ることができたおかげであると心より感謝申し上げております。

2年時担任であった寸田雅広先生からは授業中はもちろんのことご自宅にも招いていただき英語の魅力を存分に教えていただき、竹久伸先生には授業外で社説の要約の宿題を見ていただきました。3年時担任であった野々村征武先生並びに野球部部長であった松岡英孝先生にはいつもやさしい眼差しで見守っていただき、進路指導担当であった安富政雄先生からは進路につきご指導いただきました。その他の多くの先生方からも、在学中のみならず、卒業後もご指導と励ましをいただきました。

また、偶然にも、岡田彰布氏とは3年間同じクラスであり、野球部にも在籍しておりましたが、学問の道を志し、岡田氏の野球界における活躍に大いなる刺激を受け、日夜精進を続ける励みとなりました。

同窓生が多方面にわたり活躍し、お互いに切磋琢磨することこそが、関大北陽高校の発展に寄与することになるものと思います。卒業生として、母校のますますの発展を心よりお祈り申し上げております。



昔、何度も何度も怒られた 先生方を前にしての落語は寿命が縮むおもいでした…笑

落語家 三代目 桂 春蝶

(濱田 大助)

創立85周年、誠におめでとうございます。

久しぶりに母校を訪ねる機会を「ホームカミングデー」で設けていただきました。一席落語を演じる…ということだったのでですが、諸先輩方や、昔、何度も何度も怒られた先生方を前にしての落語は寿命が縮むおもいでした…笑

しかしながら、本当にアットホームな会でいい雰囲気の中、舞台を務める事ができました。

特に在学中のジャズバンド部の生徒さんがよく笑ってくださったのがとても嬉しかったですね。落語は想像の芸なんで、柔軟性がないとなかなかうけないんです。よくできた生徒さんなどだと感心いたしました。終わってから感動したのが、食堂に行けたこと!笑

特別に卒業生のためあけてくださったらしいのですが、人生の中でもう絶対行けないところだと思っていたので入った瞬間、完全に学生時代に戻りました。

さて、僕は卒業後18年になるんですが、今でも北陽の先生方には本当に可愛がってもらっています。二年の時に担任してくださった倉石先生など、よく僕の落語会にきてくださって、的確なアドバイスなど後に手紙にかけて送ってきてくださるほどです。どの先生も皆さん愛情をもって接してくださいるんで、僕も北陽高校に対する愛情は計り知れません。何はともあれ僕は北陽の生徒であることをこれからも誇りにして生きていきます。

「手を取って、ともに登らん華の山」在校生・卒業生みんなで北陽を盛りたてていきましょう!



(平成5年度卒業)

母校出身現役教職員から

希望と感動を与える学校に!

国語科教諭 PTA担当

龜田 正則 (昭和46年度卒業)

関西大学北陽高等学校は創立85周年を迎えました。

この間、母校北陽は時代と共に確実に変化してきました。もちろん「知・徳・体」の精神は揺れ動くことなく、かつ全国的に知名度はいまなお健在であることをうれしく思う一人です。

しかも伝統である元気な学校であることは今も息づいています。その一方で急激な学校教育の変化、そしてあらゆる形の連携によって、北陽のイメージが大きく変容したことによる一抹の淋しさを感じます。

しかし、もっともっと深みある学校にしていかなければならぬ。この思いを全うしながら、その時々の北陽の姿に関心をもっていきたい。

そして、校友の元気は北陽の元気につながるものと信じてきました。これからも北陽の歴史は邁進し続けることでしょう。希望と感動を与える学校に!

85周年を迎えて

英語科教諭 柔道部顧問

岩内 日出男 (昭和48年度卒業)

北陽高校が創立85周年を迎えられました事、諸先輩方々には心よりお祝い申し上げます。私は、昭和48年に本校を卒業し、昭和53年より英語科教諭として赴任しました。「知・徳・体」を受け継いで後輩と共に歩もうと。

在職30年の中には色々なことがありました。野球部の10回に渡る甲子園出場やサッカー部の全国大会出場など、体育系クラブはどのクラブも北陽の名前を全国に広めるために毎日頑張っています。陸上競技部においては、駅伝での大阪大会二連覇は記憶に新しいことでしょう。クラブ活動の育成こそが学校の発展だと思います。私は生徒たちに最も大切なものは、「体」を通して「徳」を教え、その上に「知」があると考えています。関大北陽と校名は変わっても私達が教えてきた大切な魂は脈々と流れているのです。

今後とも、ご協力をよろしくお願ひします。

悪戦苦闘しながらも精一杯努力

北陽事務室 主事 関西大学北陽高等学校同窓会 理事

澤田 渉 (昭和52年度卒業)

北陽高校に事務職員としてお世話になって早34年の月日が流れました。その間校舎は淡路から上新庄に移り、また校名も学校法人福武学園北陽高等学校から学校法人関西大学北陽高等学校になり、新たに中学校も建築され、関西大学北陽高等学校・中学校と改名。平成22年12月現在で高校生1,200名・中学生211名・教職員約百十名の学校に成長致しました。

かつて硬派で名を馳せていた男子校のイメージは面影もなく、進学校への道を着実に歩んでいる状況です。

その反面北陽高校伝統の元気のよい挨拶が薄れているのが現状で、また礼儀作法があまり身についていないのも事実です。

しかしその中で教諭も学習能力の向上に日々悪戦苦闘しながらも精一杯生徒たちの為に努力をしています。

そして教職員が一体となって今まで校友の方々が積み上げてこられたよき伝統と、新しき風を吹き込みつつ素晴らしい学校に皆様と共に作り上げていきたいと思っておりますので、これからもご支援ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

また学校のほうにも機会がありましたら是非立ち寄って現在の学校を見て下さい。

お待ちしております。

85年の歴史の中に

北陽事務室 硬式野球部監督

新納 弘治 (昭和55年度卒業)

関西大学北陽高等学校の一期生が今年卒業をしていきます。同窓会の皆様方も、この85年の歴史の中にいろいろと感慨深いものが残っていると思います。

私も前監督の松岡英孝先生からバトンを引き継がしていただき、硬式野球部の監督として早いもので20年が経ちました。4年前に甲子園に出場して以降、激戦区大阪でなかなか思うような結果を残すことができず、申し訳なく思っています。

関大北陽となりましたが、北陽の素晴らしい伝統・魂を引き継いだ後輩たちが、日々上新庄の教室で学習に精を出し、浜津グラウンドでは心・技・体を鍛えて励んでおります。同窓生の期待に応えられるよう選手、スタッフ共に切磋琢磨、精進して近い将来甲子園に出場できるように頑張ります。

今後とも同窓会のご協力、ご支援を宜しくお願ひします。

伝統を継承し、更に進化した学校に

社会科教諭 サッカー部監督

矢田 竜之 (平成7年度卒業)

関西大学北陽高等学校になり3年目を終えようとしています。この3年間で学校の雰囲気は大きく変わりました。女子生徒がたくさん入学し、体育祭や文化祭などの行事では先頭に立ってクラスを引っ張っております。男子生徒もそれに負けないよう頑張っているため、学校は活性化しております。さらに4月より中学校を開設したことにより、中庭では中学生の元気な声が飛び交っています。北陽高校のOBとして学校が活性化されることはうれしい気持ちでいっぱいです。しかし、関西大学や国公立への進学を目指すため、以前のようにクラブ活動へ時間を割くことができず、講習などに多くの時間を充て、クラブ活動の時間が減っている現状にあります。私達のころは、クラブ活動や学校生活を通し、「人としてどのようにあるべきか」ということについて先生方や先輩から時間を掛けて教えていただきました。あの時、真剣に接してくれた先生方や先輩がおられたから、今の自分があるのだと思います。学校が変わった今だからこそ、諸先生方や先輩方の思いを無駄にせず、これまで築き上げてくださった伝統を継承し、更に進化した学校にしていきたいと考えております。

今後も母校への愛を捨てることなく応援してください。よろしくお願ひいたします。

新たな「関大北陽」の伝統を築きたい

社会科教諭 硬式野球部コーチ

辻本 忠 (平成7年度卒業)

この度の母校の創立85周年に際して、心よりお祝い申し上げます。

この節目の記念誌に私が寄稿させていただくことになり、ありがとうございます。

卒業してから早、16年が経ちました。北陽高校でさまざまなことを教わり、その教えは今も私の基礎となっております。幸いにも、教師として母校で教えることとなり、後輩たちを指導する立場として、今までご指導いただいた先生方からの教えを思い出し指導させていただいている。

校名は変わりましたが、北陽の伝統をしっかりと後輩たちに伝え、また新たな関西大学北陽高等学校の伝統を作り上げられるように微力ながら尽力していきたいと思っております。

卒業生の方々のご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。

ホームカミングデーに出席された 恩師からのお祝いのメッセージ

『若い頃の気持に なることができました』

林 敏夫元校長先生

昨年に続き今年も北陽同窓会にお招き頂き懐かしい卒業生の皆さんにお会いできて、若い頃の気持になることができ、楽しい一日でした。教師にとっては、教え子の成長が何より楽しみですが、還暦を過ぎて元気一杯の皆さんの姿を拝見して、嬉しい限りでした。

昔のように授業をするように言われて、八田先生担任の人の多いクラスを受持ち、先生の面影を偲びながら、先生の思い出を話していましたが、いつの間にか話は現在の世評となり、このままではわが国は滅びるという憂國の思いに熱が入ってしまいました。今もある日のことを思い出しながら、わが身の老いを慨くにつけても、皆さんのご健闘とご多幸を祈るばかりです。

北陽にいた頃、学校を辞めたら、晴耕雨読の悠々自適の生活ができると、それが夢でしたが、84歳になった今は、足の悪い妻の介護や病院への送迎、それに買物という仕事が加わり、大変忙しい生活を送っています。それでも、朝は掛け防止の為に始めたピアノの練習は欠かさず、介護の合間には、庭木の剪定、草取りをし、夜の謡曲練習も続けています。

それに、故郷の下関市に旧い生家が残っていますので、その管理のために、隔月に一度帰省しています。そこでも、庭木の手入れや草むしりが仕事で、老婆を鞭打って働いています。そして、後は天命を待つばかりという心境です。



ホームカミングデーに 参加して

奈良 由次先生

11月13日、ホームカミングデーに参加し、久しぶりに北陽の校門をくぐりましたが、その変貌ぶりに目を張りました。

私は昭和38年に理科数学の教諭として着任し、昭和42年に担任として初めて卒業生を送り出しましたが、それよりはるかに大先輩の方々も出席しておられ北陽の歴史の深さを実感しました。当日は卒業生の春蝶さんによる落語、ジャズバンド部の演奏など多彩な企画で楽しませて頂き、お世話を下さった足立同窓会長をはじめ同窓会役員各位に感謝します。

私も現在地域校区の小学生の学校評議員を委嘱され多少なりとも教育関係に携わっております。昭和40年頃と比べ教育内容、生徒の気質などに大きな変化がある事を認めざるを得ません。ただ北陽教育の伝統である知徳体の精神はいつまでも引き継いでいってほしいものです。

関大北陽高校の益々の発展を祈念しております。



ホームカミングデーの 参加と近況

金澤 勇元教頭先生

「60歳以上を対象の還暦同期同窓会」のご成功を心から喜んでいます。これも足立会長を始め、スタッフの皆さんの計画・立案と努力のおかげで確信しております。

今回は、前回(20年)と比べ参加者が多く内容も府下トップクラスのジャズバンド部の演奏に始まり、3組に分かれた模擬教室では、40年以上前を思い出したのではありませんか。

卒業生「3代目桂春蝶」の講演は身近なネタでありましたので、笑いと拍手で盛り上がったようです。是非千日前の徳徳亭に行きたいものです。

懇談会は学年の異なる卒業生に思い出話や近況報告を聞き、その活躍や頑張りを頼もしく感じました。又、就任前に卒業された方々から当時の学校状況や生徒の考え方を知ることが出来ました。新しい出会いがあり、誠に楽しい一日でした。

次回には新しい卒業生も来られ活躍話を聞かせてくれるでしょう。是非会いましょう。

「近況報告」

昨年の8月に狭心症の手術を経験しましたが、発見が早かったので事なきを得ました。その後の経過は良く、以前より体調は良くなりました。

主な行動は

- ①町会長を12年続けて、堺警察防犯協議会副会長をしています。昨年は日本一を34年続けていた街頭犯罪件数を千葉県に譲り2位になりました。多くの府民の皆さんの協力があったからで喜んでいます。
- ②少年補導員20年以上続けています。
- ③大商学園高等学校の理事をし、非常勤を今年で4年になりますが、生徒募集の定員より入学者が2年続き多くなりましたので、喜んでいます。楽しみは旅行・ゴルフ・ダンスです。



「われ等が北陽」

荻原 肇先生

創立85周年ホームカミングデーの開催おめでとうございます。

当日諸先輩をはじめ同期の皆さんとお会いし、当時過ごした北陽での生活を懐かしく思い出し楽しい時間を過ごすことが出来ました。皆さんのお元気でご活躍のご様子何よりです。

「われ等が北陽」

皆様これからも健やかにお過ごし下さい。





創立85周

還暦



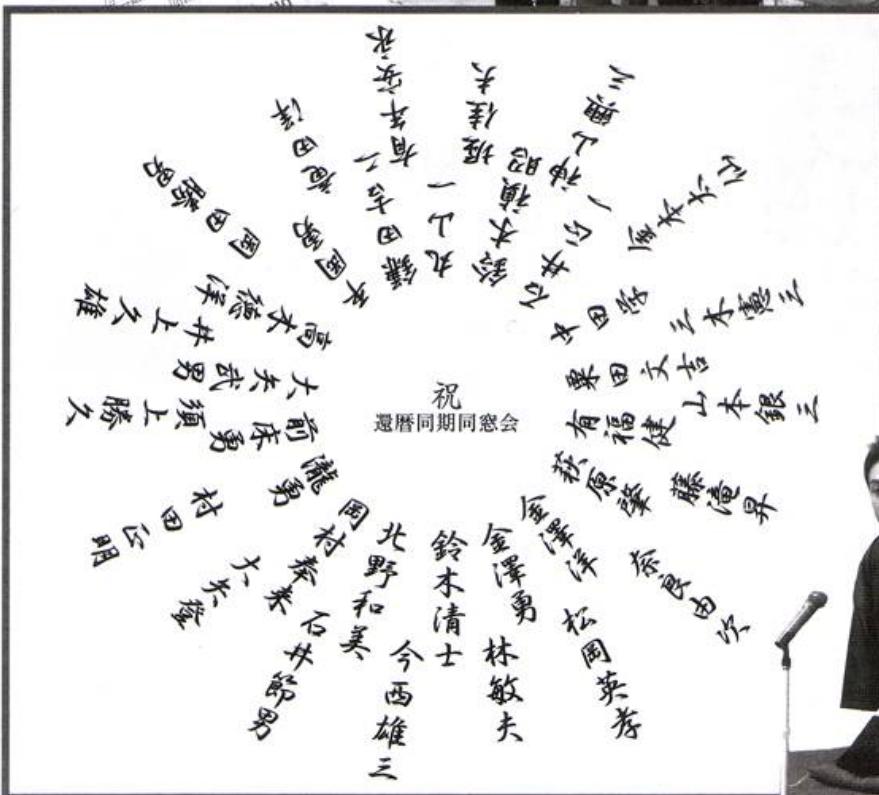
近代的な新校舎に驚きました!

昭和44年卒業以来はじめて母校を訪れ懐かしさと、近代的な校舎に変わっている事に驚かされました。

当時の面影として残っているのは体育館のみ、学校名も生徒も男子校から共学へと変わり別な学校に来たようでした。

昔は泥臭い男社会ではない、優等生の集まりのような雰囲気が漂っていました。

初めての参加であり、同級生は出席しているだろうか。



年記念ホームカミングデー

同期同窓会

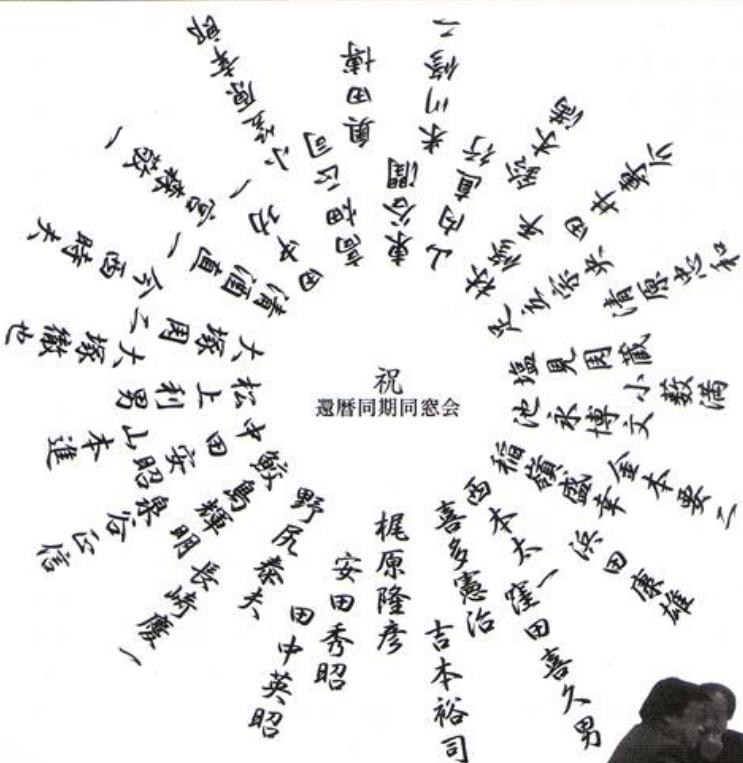
還暦を迎えた60歳以上の方々に母校を訪ねていただき、恩師と同窓との再会の場である、第4回「還暦同窓会」を平成23年11月12日(土曜日)午後2時(予定)から開催いたしますので、ご参加をお待ちしております。



知った顔が見られるだろうか、名前と顔が一致するだろうかと心配をしながら参加しましたが、当時の先生方、参加された皆さん（当然それなりに年を重ねられていますが）の元気な姿・声を聞きほっと致しました。野球部の先輩の方々も松岡先生の周りで昔話に花を咲かせておられ、参加してよかったですなあと思いました。

現在、拠点を東京に置いており、少年の野球スクールおよびLED照明器具の販売などをやっており、私自身も昨年60歳の還暦を向かえ体調面の心配もあり無理しないよう体と相談をしながら働いています。

(記:元プロ野球選手 長崎 慶一(昭和44年度卒業))



懐

か

し

の

**「故八田先生を偲ぶ」学級**担当／林 敏夫先生
出席者数／18名**「トイチの世界」学級**担当／鈴木清士先生
出席者数／17名**「故 八田 廣次先生」のご子息様からの手紙**

このたび、関西大学北陽高等学校85周年記念同窓会が盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

さて このたび、関西大学北陽高等学校同窓会様から85周年記念同窓会を迎えるにあたり、父の代わりにお招きを受けたのですが、あいにく仕事の関係で出席できずお詫び申し上げます。

そこで、普段家庭での父の素顔などを紹介させていただきます。父は、家庭ではごくごく平凡な親であり、細かいことには一切触れず、私は叱られた記憶も特にありません。心配性の父は、私が社会人になってしまふと帰りが遅くなると、よく部屋をのぞきに行つたと母が申しておりました。自分には厳しい父も煙草だけは止められず、何度も禁煙を試みたようですが、ついに最後まで吸い続けることになりました。朝起きてから大好きなコーヒーを飲みながら煙草の煙をゆらすひと時が、退職してからの幸せで至福の時間であったようです。煙草と同じぐらい読書が好きで、お金が少しだもあると本屋さんに行っては本を買い込み、母親から家が傾くと、よく文句を言われておりました。また、歴史の好きな父は、大島先生とよく神社仏閣を回り、観音様の顔を見せてもらいに出かけていくのも楽しみな時間でした。亡くなる1週間前にも大島先生と近くの石山寺を散策しており、その時に撮っていただいた写真が、最後の記念となりました。

父が、皆様方にどのように語り、教えていたのかは私には知る由もありませんが、昭和35年卒業の竜田 洋様が会報の第31号に掲載されていましたとおり、北陽高校の建学の精神である「知・徳・体」について父がじっくりと説明し、やる気を起こさせてきっかけになったと述べられておられます。また、岡田 武志様が「万年横着膜炎」という見出いで面白おかしく語られており、父の名前が会報の紙面に出てくることは、大変ありがたく感謝をいたしております。

平成22年10月吉日

大津市南郷町 八田 由紀雄

【トイチの世界】

◎大変有益な講義で参考になりました。母校の、ますますの発展をお祈りしています。ありがとうございました。

(昭和21年度卒業 山本 銀三)

◎「トイチ授業」では、トイチの世界の面白さと恐さを鈴木校長が上手く話されたが、その授業時間が少し短か過ぎたようで、少し残念に思いました。しかし乍ら、創立85周年記念同窓会として、新しい試みを企画され大いに意義深いものでした。ぜひ、次会につないで行かれることを期待しております。

(昭和23年度卒業 三木 憲三)

◎トイチのクラスで、高校・大学の学生になった気分でした。講義が口頭のみで資料があればと思いましたが、小生にとって有意義でした。また、林先生のお姿を拝見しご健在ぶりに喜びを感じました。私は林先生の初担任で初めての生徒でした。今後も、ご健在たれと祈っています。関大北陽高校・中学校の発展を願っております。苦労も多いと思いますが、忍耐の精神で頑張ってください。足立会長

授**業****体****験**

「北陽商業科」学級

担当／金澤 勇先生
金澤 洋先生
出席者数／16名

の今後の活躍をお祈りいたします。

(昭和28年度卒業 金本 太仙)

◎トイチの世界で学んだ当時の3年間、あの懐かしい淡路校舎を思い出させた。その時、あの素晴らしい正門が現在も頭の中に残っている。

(昭和30年度卒業 石井 正一)

◎一円をトイチで10年借りると兆になるとは思いませんでした。良い体験をさせていただきました。ありがとうございました。

(昭和33年度卒業 丸山 一)

◎良い授業を受け大変喜んでおります。さて、友人の名手 正治君と朝田 隆彦君の参加がなくて、さびしく思った。彼等の住所を明記しました。(昭和37年度卒業 井上 久雄)

◎人生の生き方にトイチでの話。一日一善、改善をすれば年間365回、数年後には回数だけ表せない大きな成果がある。「やろう」という決意と継続が必要で「できそうな事から始める」「少しでも前より良くする」を強調されていた。還暦も過ぎ「一日一つ」

「前向きに進もう」何もしなければ0のまま。高校生時代から続けてきた絵の道、一人で建てた木工&陶芸の工房、朝日の絵の枚数。改めて校長先生の話に感動と同調を感じた。

(昭和37年度卒業 瀧 勇)

【北陽商業科】

◎昭和41年度に卒業以来の授業を受けられる機会を与えて頂いた事に感謝いたします。本当に懐かしい気持ちで授業を受けました。先生の早口と、かんだかい声が教室に響き渡り、厳しく指導して頂いた事を思い出しました。

よく叱られた事、指揮棒?で眠っているとコツン、隣の人話しているとコツン。悪ふざけしていると、机の横に立っておけと授業が終わるまで起立していたこと等いろんなことを思い出し感無量でした。

しかし、今の先生はかんだかい声でなく、ゆっくりお話をされ、恐かった時の面影も無くなり、歳をとられたと感じる授業であった。

(昭和41年度卒業 西本 太一)

◎今回、初めて参加させていただき新しい校舎・グランドや新しい様々な施設に当時と比べ、ただビックリするばかり。また、男女共学は予想もしなかった様変わりに45年の歳月は、こうも変わるものかと、感慨深いものがありますが、懐かしい先生方や先輩、同級生とお会いしたら当時のことが蘇って気持ちもその時代に戻り昔話に大いに盛上りました。今後は部活動別に現役の生徒さんとの交流を企画していただければ幸いです。

(昭和42年度卒業 小藪 満)

◎先生方とお会いでき在学当時のことが思い出された。風紀委員として制服・制帽の点検など、よくやったなと思います。初めての授業科目で商業簿記に出会い、杉浦先生に初步から教えていただき、2級検定に合格することができました。また、お蔭さまで大阪経済大学に入学することができました。今も、生活の糧を得るために役立っています。北陽はまさしく母校であると再認識いたしました。

(昭和43年度卒業 田中 功一)

◎金澤先生のご講義、大変懐かしく、当時の授業風景を思い出しました。当時のクラスメートや知人が誰ひとり居ず、新たな出会い

(敬称略)

いもなく、誰ともお話ができなかったことが残念な思いでした。

(昭和44年度卒業 泉谷 正信)

【故八田先生を偲ぶ】

◎昭和30年3月の卒業生ですので、当日の担当先生が、自分自身が高校2年・3年の時に林先生からご教授いただきました。懐かしい思いです。同窓会の皆様には、いつもお世話をいただき、ありがとうございます。

(昭和30年度卒業 堀 佳夫)

◎八田先生は、心の優しい、一人ひとりの学生の個性を良く見ておられ、その個性を伸ばすような教育・指導をされておられた先生であったと思います。ご子息の手紙を読ませていただき愛情が感じられ、涙がこぼれました。

(昭和35年度卒業 有年 安永)

◎八田先生は、厳しさの中にも、深い愛情のある先生でした。ご子息の手紙を拝読させていただき、ご家庭にありましても、家族への愛情が感じられる内容で目頭が熱くなりました。先生は、ヘビースモーカーで煙草の銘柄はいつも「朝日」を3~4箱所持され、職員室ではストレス解消のためか、よく吸っておられた。煙草の臭いを消すため授業前や授業中にも、よく「仁丹」を噛んでおられた。よって、誰からかともなく生徒達から、あだ名を「仁丹」と親しみをもって呼ばれていた。本日、創立85周年記念同窓会に出席し、大変良かったと。懐かしい良き一日でした。

(昭和35年度卒業 鎌田 吉二)

◎林敏夫先生の講義を受講し、八田廣次先生が同僚の先生方や我等生徒に対しても誠心誠意お話される内容で、お人柄を彷彿させ懐かしく感じました。八田先生は生徒一人ひとりの個性を早く見抜き、その特性に合った「人を生かす」教育をされていたように思っています。特に、社会に出てから実践に強い教育を標榜され、愛情もってご指導教育された。私は、ご教

授いただいたことを実社会で実践に生かすことができ、大いに感謝しています。現在、この感謝の気持ちを報謝の心でもって応えてゆくようにしています。ご子息様からの手紙を拝読させていただき、ご家庭におかれても人間味溢れる優しい先生の素顔がうかがえ、胸が熱くなった。このたびの創立85周年記念同窓会に出席し、親しかったクラスメートや諸先生方と懇親ができる、喜んでいます。ありがとうございました。

(昭和35年度卒業 竜田 洋)

◎八田先生からは、君は電信柱のようだな、と言われました。何故ですかとお尋ねすると、人は心が丸いだけでは生きていけないぞ。心の曲がった人への対処の仕方を自分なりに研究してみなさいと、優しく忠告いただいた。生徒一人ひとりの個性をしっかり見抜きアドバイスをされていたこと、ご子息の手紙を読ませていただき、目配り・気配りをされ、家族への心配りなど自身に心を打つものがあった。そのような生き方をされていた先生と出会えたことに感謝したい。創立85周年記念同窓会出席してよかったです。

(昭和35年度卒業 平岡 勇)

◎八田先生は、同期の生徒からは人気ががあり、通称「仁丹」「仁丹」と呼ばれていた。先生は自分のあだ名を、知つてから知らずか、怒るでなし、聞き流していたようです。創立85周年記念同窓会に出席して同期のメンバーと話が弾み良かった。

(昭和35年度卒業 岡田 勝男)

◎41年前を思い出すことができ、創立85周年記念同窓会に出席させていただき、とてもよかったです。

(昭和44年度卒業 野尻 泰夫)

◎創立85周年記念同窓会に出席して、良かったです。懐かしい思いでした。ありがとうございました。

(昭和44年度卒業 田中 英昭)

【同期同窓会に出席して】

◎同期同窓会開催当日の写真を送付いただき、ありがとうございました。昔の母校

の姿がなく、少し寂しく思いましたが、素晴らしい新学舎を見て驚きました。時代の推移でしょうが、昔の想い出が頭の中で空回りしたようです。戦時中の卒業でしたので、当時のことが心に刻まれていたのでしょう。同窓会長はじめ関係各位のご配慮、ありがとうございました。同窓会の今後の発展を祈っております。

(昭和20年度卒業 有福 健)

◎中学までの私であれば、今の私はいません。それを矯正してくれたのは、母校の教育方針と3年間担任の庄田先生のお蔭であると感謝しております。85周年危難ホームカミングデーに参加して、当時の状況が思い浮かび、大変有意義でした。

(昭和38年度卒業 大矢 登)

◎希望すること。

- 1) 参加時における入場口(受け付け)を明確にして欲しい。
- 2) 参加費が少々高くて会場等を考慮して、アルコール飲料を望む。
- 3) 個人的ではありますが、受付の際に住所変更をしましたが、その後、変更されず旧住所での郵送であります。早急に住所変更をお願いいたします。

(昭和41年度卒業 金本 要二)

◎何十年も会うことが無かった友と巡り会えて、良い思い出になり有難うございました。

(昭和41年度卒業 梶原 隆彦)

◎同級生・先輩・先生方に43年振りに再会できたことが大変嬉しかったです。これからも機会があれば参加したいと思っています。

(昭和42年度卒業 塩見 周藏)

◎何年間も、校歌を唄ってなかつたのに自然に歌詞が出てきたことには、自分自身北陽への想いが、と再確認いたしました。また、人それぞれの顔は素晴らしく昔をしっかりと思い出させてくれました。

(昭和43年度卒業 小笠原 幸郎)

(敬称略)

平成22年度 第33期定期代議員会報告

平成22年4月24日(土)16時から、母校1階大会議室に於いて、昭和17年度卒業から平成4年度卒業の代議員43名が出席されました。特に今期は全役員が任期満了のため、神山会長から副会長の足立宗央氏を会長に指名、全会一致で承認された。足立新会長から新執行部の発表がありました。



新執行部メンバー 左から 曽川会計 中尾理事 北川副会長 山内副会長
足立会長 米川副会長 内海理事 国府島理事 澤田理事 音頭監事



(左)前会長 神山 興三氏と、(右)新会長 足立 宗央氏

平成21年度 決算報告

自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日

収入の部

(単位 円)

科 目	予 算	実 績	摘 要
前期繰越金	5,431,977	5,431,977	
会 費	1,005,000	1,162,000	194名 (2名×5,000/192名×6,000)
会員・会報協力金	945,000	1,715,000	343名×5,000 (31号,198名/32号,145名)
代議員会会費	200,000	200,000	50名×4,000
雑収入(受取利息)	5,000	14,277	預金利息
総 合 計	7,586,977	8,523,254	

支出の部

科 目	予 算	実 績	摘 要
会 議 費	50,000	0	
代議員会会費	200,000	156,200	
人 件 費	50,000	48,000	
交 通 費	150,000	71,050	委員会、役員会等交通費
消 耗 品 費	200,000	60,164	インクジェット、封筒
通 信 費	1,300,000	1,184,145	会報32号発送費、電話料金、切手、葉書
慶弔費	450,000	553,695	卒業祝賀品、課外活動副賞、お礼
支 部 費	100,000	62,052	関東支部
雑 費	300,000	227,847	コピー機使用料、振込料
予 備 費	50,000	0	
小 計	2,850,000	2,363,153	
会報発行費	1,500,000	1,523,700	会報、HP更新費、名簿保守メンテ
組織・事業運営費	100,000	78,185	会報協力金払出料
小 計	1,600,000	1,601,885	
合 計	4,450,000	3,965,038	
次期繰越金	3,136,977	4,558,216	
総 合 計	7,586,977	8,523,254	

平成22年度 予算書

自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日

収入の部

(単位 円)

科 目	予 算	摘 要
前期繰越金	4,558,216	
会 費	2,850,000	475名×6,000(卒業予定者475名)
会員・会報協力金	990,000	前年実績198名(4月~12月)
代議員会会費	100,000	50名×2,000
雑収入(受取利息)	9,000	預金利息
総 合 計	8,507,216	

支出の部

科 目	予 算	摘 要
会 議 費	30,000	
代議員会会費	100,000	
人 件 費	0	
交 通 費	120,000	委員会、役員会等交通費
消 耗 品 費	80,000	インクジェット、封筒、事務消耗品等
通 信 費	600,000	会報発送費、電話料、切手、葉書等
慶弔費	1,117,500	卒業祝賀品、課外活動副賞、お礼
支 部 費	100,000	関東支部
雑 費	250,000	コピ-機使用料、振込料
予 備 費	0	
小 計	2,397,500	
会報発行費	1,340,000	会報発行、HP運用等
組織・事業運営費	100,000	会報協力金払出料、組織運営費等
小 計	1,440,000	
合 計	3,837,500	
次期繰越金	4,669,716	
総 合 計	8,507,216	

母校だより

課外活動表彰

三位一体(学校・恩師・同窓)を目指す具体策の一環で、同窓会より在校生の課外活動に対する表彰制度(21年4月施行)である。今回は次の11名を表彰し賞状と副賞を贈呈しました。受賞者の生徒から、次の喜びのメッセージが届いております。

受賞おめでとうございます



後列左から 田村君、小林君、前井君、タロック君、星野君、水間君
前列左から 酒井君、竹安君、鈴木学校長 熊谷さん、橋本君、松本君、

受賞者からの喜びの声

国民体育大会

■ハンドボール部 3年 酒井 翔一朗

私は、国民体育大会に出場させていただき、普段では学べない事を数多く学ぶことができました。

まず、大阪選抜のチームのメンバーは、ほとんどとは最大のライバルである大体大浪商高校でした。そんな状況で私はやっているのか、不安ややはり最初はなかなか馴染めなかつたのですが、ハンドボールを通じてだんだんチームが一つになってきました。そして、国体予選では個々の持ち味が出て、勝利をつかむ事ができました。

しかし、それからの練習を積みましたが、国体本戦では敗北してしまい能力の差やチームで戦う難しさを知りました。

最後に國体を経験できて本当に良かったと思います。なぜなら人との輪が広がり、何より北陽ハンドボール部がいかにすばらしかったかがわかったからです。

■ハンドボール部 3年 竹安 洋介

私は高校からハンドボールに入部しました。すばらしい仲間達にも恵まれて、目標である全国大会にも出場する事ができました。さらに国民体育大会にも出場し、一回戦で敗れはしたもの、大阪代表としてプレーする事ができたいへん誇りに思っています。

私はこの経験を通じて人間としても一回りも二回りも大きく成長できたのではないかと感じています。

■ハンドボール部 3年 橋本 明雄

私は中学・高校とハンドボールをやってきて、全国大会に出場するチャンスがありませんでした。しかし、三年生で二度も全国大会に出場できました。春季選抜選手権大会と国民体育大会です。なかでも国体は大阪代表として全国と戦うことは、私にとって嬉しいことありとてもいい経験でした。国体は初めてのことばかりで緊張していました。大阪代表として挑戦できたことは、これからハンドボール人生にとっていい経験になったと思いました。予選を突破することができたときは嬉しく感動しました。愛知県に敗れてしまいましたが、大阪代表として出場できたのはすごい事だと改めて感じました。この経験は忘れないことはないと思います。

■柔道部 3年 松本 一平

私は、国民体育大会に大阪代表として出場しました。高校一年から全国で試合をしてみたいと思って努力していました。試合は意外と緊張せずに戦えました。攻めの柔道で思い切って戦いましたが、ポイントを取りきれず引分けばかりで結果は5位でした。もっと活躍したかったので悔しかったです。進学しても全国に出場して勝ち上がるような選手になりたいと思います。国体に出場できたのは、先生に技術面や精神面などを丁寧に教えて下さったからだと思います。好きな柔道をできたのは親が一生懸命育ててくれたからで、親にはとても感謝しています。応援してくれた人達、柔道の先輩や後輩にも心から感謝しています。本当にありがとうございました。

インターハイ

■陸上部 2年 水間 洋太

僕は沖縄で開催された全国インターハイに800メートルで出場させてもらいました。しかし、僕は全国ではまだ通用しない記録の選手だったので、チャレンジャーの気持ちで全国レベルに挑戦しようと思いました。

沖縄での滞在は気温・湿度、食べ物が全く異なり、調子を維持するのが難しかったです。しかし、指導して下さった先生方や親、保護者会の方々、仲間のおかげで全国に行くことができたのだという感謝の気持ちで、思いっきり走ろうと思いました。

試合では600メートルまでは調子よく先頭で走ることができましたが、ラストの200メートルで離されてしまい、全国レベルとの力の差をみせつれられる結果となりました。

僕は全国ではまだまだということを再確認させられました。ただ、2年生で経験できたことは来年の高校最後のトラックシーズンに大変プラスになりました。来年は、全国インターハイが行われる岩手県の競技場に必ず立って、全国のトップで走ります。

■水泳部 2年 星野 拓也

関西大学北陽高校、初代主将をさせていただきました星野拓也です。今年のインターハイで30年連続出場することが出来ました。長く続いている水泳部の伝統を絶やす事なく守れたことは、主将として役割を果たせたと思います。また、個人でも二年連

続でインターハイに出席し、今年はベスト18に入る事ができました。石坂先生、吉田先生の指導の下、日々練習し結果が残せたのはとても嬉しく思います。今後も水泳部の活躍を期待しています。

■水泳部 3年 タロック・ライアン

北陽水泳部に入ったころの私は遅くて、インターハイ出場を目指していたものの本当に出場できるか不安でした。三年生になりましたが、いざ出場すると周りの人達のレベルが高く、全国で戦える力がまだ私にはないという事を思い知らされました。私は大学でも水泳部に入部するつもりです。そして、今度は全国大会出場ではなく、全国で戦える選手を目指して頑張ります。

■水泳部 2年 前井 韶也

私は、沖縄で行われたインターハイに50m自由形と400mリレーに出場させていただきました。昨年度より結果は良かったのですが、決勝のレベルまではまだ力不足でした。来年は高校最後の年になります。個人の成績だけでなく、チームとしての成績を上げ、水泳部のインターハイ連続出場の伝統を絶やさないように、悔いのないように頑張ります。

日本ジュニア・ユース

■陸上部 2年 熊谷 美希

60本、これは私が今シーズン走った本数です。本数を重ねたからすごいというわけではありません。しかし、中学一年生から陸上を続けて今年ほど多くの試合に出る機会を得たことは大きな進歩となりました。そして日本ユースもまた私を成長させてくれた試合の一つです。中学以来2度目の全国大会ですが、結果は予選落ちでした。走りの内容に関して出だしは良かったわけですが、たった一回だけ浮いてしまい、これで流れが止まって、集団から置いて行かれる結果になりました。大きな大会で最大の力を出す難しさを改めて感じました。しかし、緊張することなく一台目から思いっきり突っ込んで勝負できたことはとても良かったと思っています。来シーズンについては今年一度もとれなかった1位にこだわります。そして全国インターハイまで勝ち上がるため、絶対的な力をつけています。関大北陽陸上女子として団結力を生かして、男子をひっくり返す勢いでがんばるのでこれからも応援よろしくお願ひします。

■陸上部 2年 田村 公

今回初めて日本ユース選手権という全国規模の試合に出席して、自分と全国選手の差を痛感する結果となりました。これから目指す、全国インターハイ・国体出場に向けて、競技面・精神面での課題が数多く見つかり、目標はまだまだ高く難しいところにあると感じることができました。来年は全国の舞台で勝負するために、冬季練習に打ち込んでいきたいと思います。今回の試合はその気持ちを強くしてくれてとても意味のある大切な試合となりました。

■陸上部 2年 小林 準

僕は、日本ユースにやり投げで出場することができ6位に入賞することができました。しかし、僕のベストは60m28cmなので決して満足のできる結果ではなく、表彰台の上に立ったときも素直に喜ぶことができませんでした。それがとても悔しかったです。この悔しさと日本ユースという大きな舞台で投げた経験で学んだことを忘れずに、来年のインターハイに生かしていきたいと思っています。そして、表彰台に喜んで立てるように、けがだけはしないように気をつけて、冬季練習にしっかりと取り組んでいきます。

水泳部 活動報告

北陽水泳部と共に

体育科教諭 水泳部コーチ 吉田 洋介 (平成16年度卒業)

水泳部の歴史は、石坂先生が北陽高校水泳部に就任されてから始まったと言っても過言ではありません。石坂先生が就任されたのは35年前で、当時は全国どころか大阪でも北陽高校水泳部の名前は知られていませんでした。しかし、石坂先生が就任されて北陽水泳部の名前が全国へ広がるのにそう時間はかかりませんでした。以来現在に至るまで30年以上も全国大会連続出場を果たしています。そして、私はこのような素晴らしいチームを指導させて頂いています。私自身石坂先生の指導を受け、深く感謝し水泳部に対して並々ならぬ愛情を持つ事が出来ました。今後は私が石坂先生から受け継いだ情熱と愛情を生徒達に伝える番だと思っています。

北陽高校は関大北陽に改名ましたが、北陽高校の変わらぬ伝統を守りつつ、私に出来る精一杯の指導を加え、より素晴らしいチームへと成長させていきたいと思います。



石坂 喜一先生

先輩からのメッセージ

私が高校3年の時に創立60周年記念を経験し早いもので25年が経ったことに驚き、高校時代が懐かしく思い出されます。その中でも水泳部に入部し石坂先生のご指導を受け多くの経験と教えを吸収し充実した3年間でした。その指導は知・徳・体の調和した円満な人間性の形成を目指した学校の教育方針に沿った水泳指導で朝夕の練習には必ず我々の前に立っての熱血(通称マメ)先生流のご指導でした。その結果、現在の水泳部は大阪府下では常に上位に位置し、全国大会へは毎年出場する等、更に伝統種目のリレーでは圧倒的なチーム力で強さを維持。これは人間形成を基本としたご指導がチームの絆を大切にした証ではないでしょうか。

今後も更なる幾多の有為な人材が輩出され、ますます発展されますよう心から期待いたします。

(記: 田村 和照 (昭和60年度卒業))



卒業予定者の進路状況

関西大学北陽高等学校になって、最初の卒業生が巣立ちます。

23年1月末現在の進路状況は、関西大学の内部推薦226名が内定しており、卒業予定者475名の約8割以上の生徒の内定が決まっております。

TOPICS トピックス

陸上競技部が全国高等学校駅伝競走大会に2年連続出場!!



全国高校駅伝の予選会を兼ねた「男子第61回・女子第26回大阪高校駅伝競走大会」が、11月3日(祝・水)淀川右岸河川敷コースで開かれ、陸上競技部(男子)が、2年連続2度目の優勝を果たし、12月26日(日)京都市西京極陸上競技場付設マラソンコースで行われた第61回全国高等学校駅伝競走大会に出場しました。

3年生2人は、持っている力を出し切ってくれた。1、2年生の5人が全国大会を経験でき来シーズン3連覇を目指し、勝負の年にしたいと思います。今後とも応援よろしくお願い申し上げます。

「報告」全国大会出場にあたり、同窓会・還暦同期会からお祝い金をいただき厚くお礼申し上げます。

(記：陸上競技部顧問 米川 和宏(平成10年度卒業))



関東支部だより

平成22年度関東支部会が開催されました。

平成22年度関西大学北陽高等学校同窓会関東支部会及び懇親会が平成22年5月22日(土)14時より東京駅八重洲北口近辺にある日本橋 本陣房(そば・日本料理屋)において開催されました。

本部から神山前会長及び足立新会長をお迎えし、関東支部から最年長の菊野氏(17年度卒業)をはじめ総勢10名で開催となりました。

神山前会長から新設された関大北陽中学校の入学状況や高校の近況報告、毎年開催している「還暦同期同窓会」に向けて、より多くの方に参集して頂くための活動等について報告が行われ、引き続き内海支部長の乾杯で懇談会が開催されました。

懇親会においては、菊野大先輩から在学当時の話や太平洋戦争の関係で繰り上げ卒業になったことや日本体育大学で英語を教えていたことなど、菊野氏の人生の道のりについて面白く



お話をいただきました。また、実重氏(昭和41年度卒業)は、第二の人生のために「あん摩マッサージ指圧師(マッサージ師)」の資格を習得され、その腕前を先輩諸氏に実技披露され、和やかな雰囲気の中で終了しました。

今後、関東支部の輪を広げるために若い世代の卒業生の参加を歓迎しておりますので、是非同窓会事務局に問い合わせてください。

(記：昭和45年度卒業 國府島 勇三)

同窓会協力募金ご協力ありがとうございました

同窓会会員・会費協力募金協力者名簿

卒業年度

卒業年度 S=昭和、H=平成

卒業年度順・敬称略
平成22年12月末日現在

元教職員	氏名	卒業年度	氏名								
元教職員	隅田 雅裕		西本 芳男		山本 正明	S. 41年	増田 正彦	S. 51年	岡田 彰布	H. 元年	田村 隆之
元教職員	松岡 英孝		村尾 清道		永岡 一泰		西田 和夫		原 強	H. 3年	兼田 昌彦
元教職員	金澤 勇	S. 24年	寺西 克美		岡田 勝男		喜多 憲治		星野 勝	H. 4年	式田 仁司
元教職員	林 敏夫	S. 25年	辻本 賢次	S. 36年	前田 省三	S. 42年	池永 博文		樋口 忠博		西澤 宏之
元教職員	棒谷 啓二	S. 26年	古川 貞夫		西口 健一		足立 宗央	S. 52年	岸間 忠秀	H. 8年	佐藤 裕介
元教職員	倉石 文昭		神保 信行	S. 37年	大竹 勝		松本 純一		山本 修平	H. 12年	須藤 大輔
元教職員	萩原 肇	S. 27年	中川 寛		濱本 敏明		米川 修二		森田 誠	H. 13年	北川 功
S. 9年	松田 直		小林信次郎		村田 正明		寺田 賢作	S. 54年	曾川 透		永野 路博
S. 11年	岡田 耕一	S. 28年	斎藤 勇		須上 勝久	S. 43年	飯川 隆司		吉井 寛		魚谷 知生
	福嶋 順夫		金本 太仙		吉木 栄次		内海 昭		鈴木 俊季	H. 14年	中島 隆公
S. 13年	土井 正男	S. 29年	三原 地生		十時 良雄		東谷 潤		毛利 勇夫	H. 15年	平井 康夫
S. 15年	味舌 十七	S. 30年	石井 正一	S. 38年	岩本 博義		坂口 順一	S. 55年	北尾 稔	H. 16年	中田 優介
S. 16年	高木 隆雄	S. 31年	辻橋 佑一		大野 健三		清酒 直一		小西 浩文	H. 17年	片葦 翔太
	木下 浩	S. 33年	川村 隆彦		大矢 登	S. 44年	安原 勤	S. 56年	康村 則雄	H. 19年	奥野 雅史
S. 17年	西村 一男		木村 孝男		辻井 宏		鮫島 輝明		仮 千次		長沢 彬
	菊野 良平		丸山 一		中谷 享		宮野 孝雄		延田 容一	H. 20年	横場 勇貴
	北川 慶一		石川 隆一		横野 幸一	S. 45年	国府島勇三	S. 57年	高木 宣宏	H. 21年	谷口 大介
S. 18年	藤滝 昇		吉田 健		浦野 武志		北川 徹	S. 58年	川合 浩幸		明星 悠輝
S. 20年	奥田 正道		菱谷 昌弘	S. 39年	岡村 奉来		吉川 敬一		高力 俊之		越前 龍司
S. 21年	三宅 敏博	S. 34年	吉田 稔弘		掘岡 宰充	S. 46年	津田 広信		田中 一嘉	H. 22年	徳山 裕晃
S. 22年	岡本 修		入江 晃央		往田 雄三		笠 忠夫		塩津 広特		近江 克仁
	廣瀬 榮一		西川 新一	S. 40年	匿名 希望		橋本 幸弘	S. 61年	吉田 典生		長堀里久豊
	中井 一清	S. 35年	浜元 孜		北村 修	S. 47年	金田 保		田村 和照		
S. 23年	高木 茂		有年 安永		水田 稔	S. 48年	山本 武司	S. 62年	松井 勝博		
	西佛 之光		岡田 武志		寺井 弘隆		山下 雅二		田中 憲一		
	武岡 昭夫		竜田 洋		城島 末明	S. 50年	小池 修		高畠 勉		
	三木 憲三		平岡 勇		多田 繁昌		仲尾 明	S. 63年	栗栖 和哉		

今回ご案内により、ご逝去され、ご家族からご連絡頂いた恩師、卒業生の方々

教諭	昭和20年商I	富士川照雄	昭和24年商I	辰田 重義	昭和35年高商E	溝口富寿雄
教諭(数学) 中村 幸彦	昭和20年商I	三宅 敏博	昭和24年商II	中村 敏男	昭和35年高普H	高泉 源
卒業生(卒業年度)	昭和20年商II	西村 省吾	昭和25年高普	芝崎 武司	昭和35年高普H	田中 康介
昭和17年商I 北秋一	昭和21年商I	川上 昭三	昭和26年高普B	平 孝雄	昭和35年高普H	吉富 陸夫
昭和17年商I 真野睦生	昭和21年商I	坂口 嘉史	昭和26年高普B	中村 五郎	昭和37年高商E	渡辺 峰男
昭和17年商II 北岡知之	昭和21年商I	中橋新太郎	昭和29年高商B	稻田 政治	昭和37年高商G	西田 勝治
昭和17年商II 古川幸太郎	昭和21年商I	林 保	昭和29年高商B	内田 正	昭和40年高商D	池田 憲一
昭和17年商II 遠藤賢治郎	昭和21年商II	井上 三二	昭和29年高商B	西田 庄一	昭和42年高商A	小島 正
昭和18年商I 山本英夫	昭和21年工	石本 和男	昭和29年高普A	堀川 忠男	昭和42年高商C	木下 孝一
昭和20年商I 青木順三	昭和21年工	土井 秀雄	昭和30年高商A	飯田 晃一	昭和42年高商D	田中 益行
昭和20年商I 安宅昭典	昭和22年商II	生島伊三夫	昭和30年高商A	小松 孝守	昭和42年高普J	脇本 次郎
昭和20年商I 酒居公明	昭和22年商II	繩間 寮三	昭和31年高商A	笹部 義幸	昭和43年高商I	石川 行男
昭和20年商I 汐田貢	昭和23年商I	井上 明	昭和33年高普C	東 清正	昭和43年高普M	近藤 哲夫
昭和20年商I 高間照男	昭和23年商I	神尾 正生	昭和35年高商C	中村 宏	昭和44年高普B	桑原 康彰
昭和20年商I 中島幸雄	昭和23年商I	橋本 幸男	昭和35年高商C	矢谷 志郎	昭和44年高普F	寺西 藤雄
昭和20年商I 野田三千男	昭和23年商I	船橋 政雄	昭和35年高商E	中上 誉明	昭和44年高普H	福田 安次

同窓の近況

「九州旅行」

我々の同期会も今年で10回を数え、1回目は恩師杉浦先生の喜寿をお祝いして箕面山荘で行い42年ぶりに15名が集まり、面影を頼りながら「誰やったか?」から始まりすぐ高校時代に逆戻りです。「毎年会いたいなあ」から始まり早10年があつという間に過ぎました。昨年は北海道の旅で、今回は九州の旅を幹事が企画してくれ、7名で10月5日から九州一周の3泊4日のツアーとなりました。

1年に1回の旅行を楽しみにして、この旅行のために健康にも注意し、旅行を出来るのも家族の健康と協力があるからと一同合えば感謝しています。

最終日には、宮崎では阪神タイガースの2軍が秋季キャンプを張っていて、ホテルが同じだったので、風呂で選手たちに声をかけ、朝食も同席するなど一味違った思い出となりました。お互いに健康に気をつけて来年も元気で旅を楽しもうと誓いました。



(記:昭和33年度卒業 吉野 定幸)

「第1回 35高槻北陽会」

平成22年3月25日(木)に「宴どころ つきの井」で昭和35年に卒業し50年振りに高槻地区(3校の中卒業者)の「第1回 35高槻北陽会」を開催いたしました。

最初に案内を出す為に、同窓者名を北陽高校同窓会名簿で高槻在住者を調査(27名)し、案内を出し12名の参加がありました。始めに幹事から同窓会名及び開催理由の説明に始まり、続いて参加者の自己紹介(何せ50年振りに逢う人が半数近く為)その後本会の発展と継続を祈念し乾杯した後、同窓会が始まりました。最初は顔の判らない人や久し振りの出会いで真面目にスタートましたが、そこは同窓生仲間で直ぐに打ち解け、和気藹々にかつ盛大な同窓会となりました。また、今回の同窓会に当り、同窓会の横断幕の寄贈(植場 康光君から)や音信不明者が幹事宅訪問による出席(同窓会事務局に住所等連絡済み)等のハブニングがあり、最後に全員で来年は同窓生の多くが古希を迎える為、来年の開催と出席者全員の健康を祈念し1本締めで中締めとなりました。



(記:昭和35年度卒業 山本 正明)

硬式野球部OB会主催「北陽岡田会」

平成23年1月15日(土)19時よりホテル阪急インターナショナルにて岡田彰布オリックスピッチャーズ監督の懇親会へ参加致しました。

当日は同窓会から足立会長を含む7名、鈴木校長先生、金澤元教頭先生、新納野球部監督、関西大学池内専務理事、野球部OBを含む約100名の参加となりました。

まずは、野球部OB会の梶浦会長の挨拶で始まり、伏尾ゴルフ倶楽部で当日開催されたゴルフ会の表彰式も兼ねており、会場は和氣あいあいの中、外気の寒さを忘れたかのような暖かな又家族的な雰囲気を感じました。足立会長は挨拶の中で、岡田監督とは吉田義男氏(元阪神タイガース監督)との関係で、十数年前からのお付き合いがあり、卒業生の中では、母校卒業生の中ではこの上ないお人柄、人情厚い方であり卒業生の誇りと発言され、本年(平成23年度卒業)の卒業生には、岡田監督の著書「頑固力」を同窓会より贈呈すると発表があった。



会後半には岡田監督の今季に向けての熱き意気込みを聞かせて頂き、会場はヒートアップ状態のまま終了となりました。

(記:昭和45年度卒業 北川 徹)

ホームページに協賛広告募集

3月1日から同窓会の「ホームページ」<<http://www.hokuyo-ob.jp/>>がリニューアルの予定です。

同窓の皆様に「交流のツール」としてご利用していただければと企画しました。

情報源として、協賛広告を募集いたしますのでよろしくお願ひいたします。詳細については、3月1日以降のホームページをご覧ください。

編集後記

「浪速若子と名をおいて契りを結ぶ…」心のふるさととして響いたこの校歌。「ふるさと」とは、生まれ育った所、よりどころにもなり、安らぎを得られる所。遠い昔…母校を思う気持ちは、年齢を重ねるほどに深いものがある。「北陽同窓」の発行が5年に一度となり、「創立85周年記念特集号」として発刊することになりました。より多くの卒業生の皆さんに寄稿して戴くことを念頭において、紙面作りを進めてきましたが、原稿依頼・時間にも余裕がなく、十分なことができなかつたかもしれません。次回発行の創立90周年記念号が、より多くの情報提供出来る様に、又、母校と同窓生を繋ぐための「交流誌」になることを期待し、同窓の皆様方の寄稿をお願い致します。

広報委員会一同